

福井県のうめの栽培面積は、日本海側では一番大きな産地です。

福井梅の栽培の歴史は古く、江戸時代の天保年間（1830～1844）に若狭町（旧三方町伊良積）で発祥したと言い伝えられています。栽培が本格化した明治時代は、普及した地域をさして、「西田梅」と呼ばれ親しまれてきましたが、昭和42年に産地の更なる躍進を目指して、「福井梅」に名称変更が行われました。

紅サシ



福井県で一番多く栽培されている品種で、その名の通り、実が熟してくると日当たりの良い部分にほんのりと赤みが差します。

梅酒、梅干しに適しており、特に梅干しは肉厚でぽったりとした食感が特徴です。

剣先

実の先端部分がややとがっていることから名付けられました。

早い時期から大玉になるため、福井県で一番早く出荷されます。梅酒や梅シロップに適しています。



新平太夫

昭和61年に品種登録された福井県オリジナル品種です。江戸時代から伝わる「平太夫」梅の名前にちなみ「新平太夫」（しんへいだゆう）と名付けられました。

やや晩生の品種で、収量が極めて多く、梅干しの品質は良好です。



福太夫

「新平太夫」に「織姫」を交配してできた品種で、平成17年に品種登録された福井県オリジナル品種です。

福太夫（ふくだゆう）の果実はやや小ぶりですが、早生で収量が極めて多く、梅酒、梅干しに適しています。

